

野球ボールを使ってブルーシートをかけました

苦労きっけに防災班

石巻市 70代 男性

地震の翌日もずっと雨が降っていたもので、屋根にブルーシートをかけなくてはならなかったのですが、いかにもタダでやってくれるような恰好をして、えらいお金をとる人もいました。

そこで、私たちはビニール袋に入れた野球のボールに釣り糸をつけて、屋根の向こう側に投げるやり方を考えたわけです。その釣り糸をブルーシートの穴に通しておけば、向こう側から糸を引っ張ると、シートがシュツ、シュツ、とあがっていくわけです。

それから、私は少年野球のコーチを長年やっているのですが、総2階の家なんかは、ノックバットを使って、キャッチャーフライの要領でボールをポンと上にあげるんです。これはちょっと技術が必要ですけどね。

とにかくブルーシートをかけるのにうんと苦労したから、地域の防災班をいち早くつくろうと思ったんです。1人は1人のことしかできないということで、大体4戸で1班。こっち側とあっち側で最低限4人いればブルーシートはかけられますからね。雨の中、屋根の上にあがって危ない目にあうことはないんですよ。



地震直後の車の運転はやっぱり危険

～古い家は軒並みくずれた～

柏崎市 30代 男性

その日、子どもが近くのグラウンドで部活をやっていたので、そこまで迎えに行こうと、車に飛び乗りました。

そのときはもう駐車場のアスファルトに亀裂が入っているし、電柱は倒れているし、道路からガスは吹き上げているといった、大変な状況でした。道路の真ん中を走ることができないので、歩道に無理やり入って通れたというようなくあいでした。

やっぱり、隣の家はちゃんと建っていても、古い家は軒並み崩れるという感じでしたね。子どもを乗せて自宅まで戻る途中も、どこもかしこも、電柱が倒れたり、電線が車にかかるぐらいに傾いたりしていて、そのあと通れなくなった道もかなりありました。

道路は渋滞になって、家に帰るまでにだいぶ苦労しました。子どもが心配で車に飛び乗ったわけですが、地震直後の運転はかなり危険だったなと思います。



「震度6強」 ってもものすごい

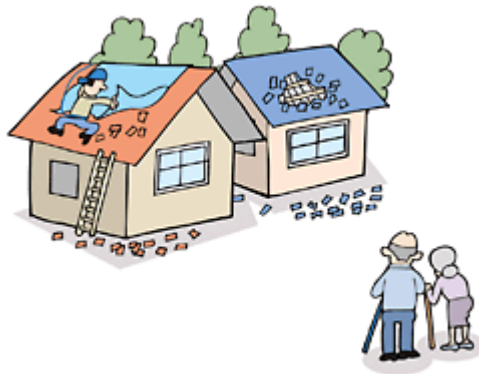
柏崎市 20代 男性

我にかえって外に出てみると、近所の人たちもみんな出てきていました。自分の家は、山の上みたいなところに建っていて、築20年ぐらいなんですけど、地盤が岩盤で、すごく丈夫らしくて、家の中がめちゃくちゃになった割には、それほど大きな被害はありませんでした。

でも、揺れのすごさには、ほんとうにびっくりしました。あとから「震度6強」と聞いて、「ああ、まあそういうレベルだよな」とひとり納得しました。

近所はと見ると、屋根のかわらがぐちゃぐちゃになっている家がけっこうありました。周りに高齢者の方がたくさんいるのですが、屋根のかわらがこわれた家は、雨が降れば当然、雨漏りしちゃうんです。

だからって、自分がブルーシートを引いてあげたとかではないんですけど、家の近所に大工さんがいて、すぐに近所の家々にブルーシートとかを手配してあげていたんです。職業を生かしたとても素晴らしいことだなと思いました。



地震が来たら、すぐテレビで情報収集

東京都 50代 男性 会社員

わが社では、震度5強以上の地震が日本全国どこかで起こったときには、休みであってもある程度情報収集をしようということにしています。もちろん、休みで出かけてしまうときはあるんですが、可能な限り、初動の対応ができるような体制になっています。

新潟県中越沖地震が発生した時、私はたまたま外出中でした。地下3階にいたんですけど、揺れたんですね。娘の運動部の大会だったのですが、隣にいたお父さんが、「揺れましたね」と。

その方は、市役所の防災担当の方なんです。で、二人してそのまま階段を駆け上がって、携帯電話でテレビニュースを見ながら、「あっ、震度5強。かなり大きいな」と。立場上、地震が来ると、テレビを見ざるを得ないんですよ。

で、すぐに会社に向かいました。そういうところは、会社からは一切指示はなく、私たち危機管理担当の間で取り決めているものです。

オフィスに駆け込むと、すでに数人の仲間が来ていました。



幼稚園の避難訓練きっかけに話した被災体験

諫早市 30代 女性

当時は高校生だったのですが、大人になって2人の子どもの親になって、もし、今同じような状況になった場合はどうだろうと考えると、見方が違ってきますね。

災害のニュースを見たりすると、子どもが幼稚園や学校に行って、主人が仕事で出かけている間に災害が起きたときにどう集合するかとか、普段からきちんとしておくべきだなと感じますね。

当時は、学校に行って勉強するだけで精一杯だったんですが、避難所には妊婦さんもいれば、お年よりの方もいらっしゃるし、生まれたての赤ちゃんをダッコしている方もいっちゃって、今になるとその人たちの苦労というか、大変さがよく理解できます。

子どもから、「幼稚園で、お山が燃えていますよという放送があって、避難訓練をしたよ」と言われた日には、自分の体験を聞かせてたりしています。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

ー簡単な手順を紹介しますー

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ



その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける



みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間



なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける



テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする

※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集

※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的



作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

